

視覚障害教育

(視覚障害児の指導について)

東京都立久我山青光学園

本日の流れ

- 1 主な眼疾
- 2 全盲の定義
- 3 盲児の特徴
- 4 盲児への支援
- 5 弱視児の特徴
- 6 弱視児への支援
- 7 各機関との連携

1 主な眼疾

① 網膜色素変性症

② 未熟児網膜症

③ 視神経萎縮

④ 小眼球・虹彩欠損

⑤ 白内障

2 全盲の定義

盲

◆ 0.02未満で点字を活用

全盲

光覚 (明暗弁)

手動弁 (眼前手動)

指数弁 (眼前指数)

3 盲児の特徴

- ①ひとりごとを言う
- ②音遊びを好む
- ③こだわりがある
- ④時間がかかる
- ⑤目押しや常同行動がでること

4 盲児への支援

生活

- ・ 目標 → 身辺自立、様々なものを手で触って確かめられる
- ・ 支援
 - ① 一緒に行く
 - ② 見通しをもたせる

5 弱視児の特徴

- ①対象物に目を極端に近づけて見る
- ②対象物を見るときに顔を傾けて
(角度を変えて) 見る
- ③見えていないという認識がない子が多い
- ④眩しいと見えにくい

6 弱視児への支援

生活

- ・ 目標 →見る意欲を育てる、細部まで自分で確認できる、触覚・聴覚を活かす
- ・ 支援
 - ①たくさんある情報はコンパクトにする
 - ②コントラストをつけて、太字を活用する
 - ③照明の工夫
 - ④見本を用いる
 - ⑤補助具を活用する

園（集団生活）での過ごし方

- ・ 安全面への配慮 →手がかりのない園庭、大きなホール、
広い遊戯室の中心部に注意
- ・ 環境設定 →音の出るものや手触りの
異なる標識の活用
- ・ 人や物との触れ合い →スキンシップの大切さ
物の大きさ等の概念

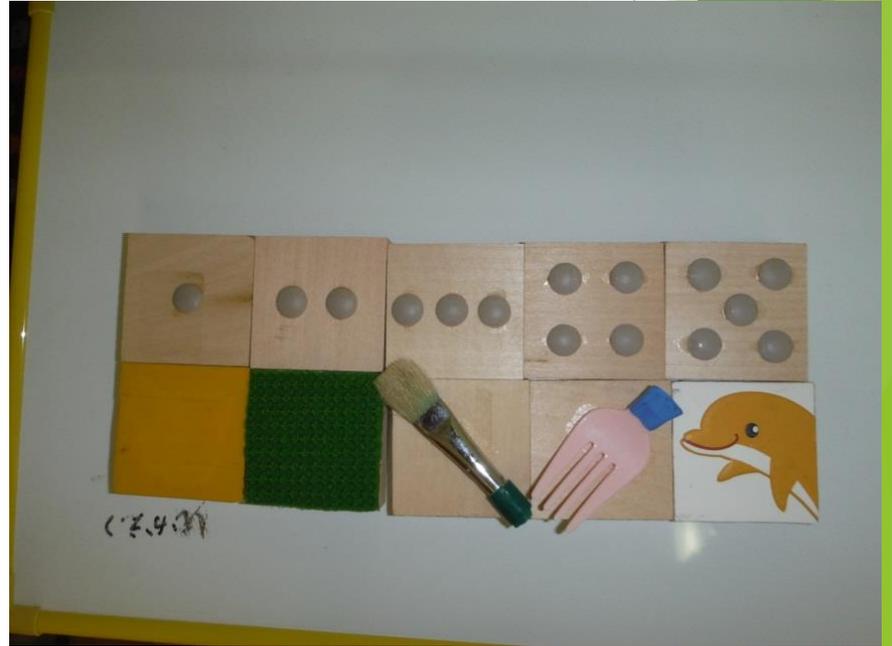
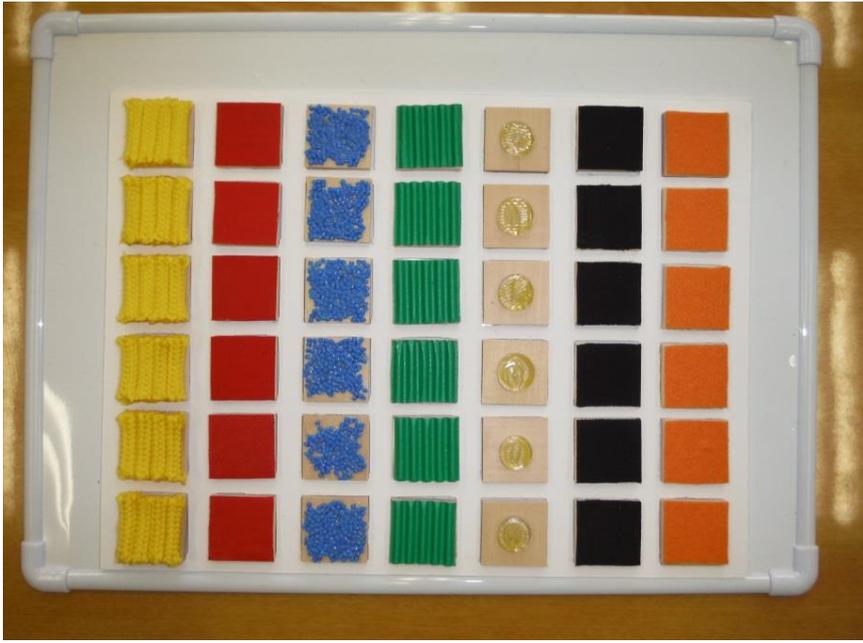
あそび

- ・ 集団での工夫 → 視覚の情報を音の刺激として加える、触覚的観察の手立てを用いる、見えない子どもの得意な遊びを取り入れる
- ・ 操作的活動 → 言葉だけの関わりにならないように、動作と一緒に
- ・ 手指の巧緻性 → 実物、模型等具体物を用いる様々なものを触れる手を育てる
- ・ 幼稚部での主な活動 → 運動あそび、音楽リズム さわるつくる

教材

- ・ タオルのリングをつける
- ・ 椅子のマークを決め、ロッカー、
タオルかけの場所等、統一する
- ・ 上履きの左右の印
- ・ 時間割等の活用





7 各機関との連携

- **医療機関、福祉、教育現場、療育すべてが連携し、サポートしていくことが大切。**

★巡回相談★

◆巡回相談とは

- 地域の保育園、幼稚園、療育機関へコーディネーターが出向き、視覚支援や配慮についてアドバイスをさせていただきます。
- 0歳児で生後間もないお子さんがいる場合等は、保健師と連携し、御家庭に訪問させていただきます。

◆巡回相談の流れ

- ①保護者が本校へ電話をする。（巡回の確認をします）
- ②保護者が通園先へ巡回相談実施可能か確認する。
- ③通園先担当者が本校へ電話をする。（日時を決めます）
- ④決定した日時にコーディネーターが伺います。

参考文献

- ▶ 五訂版 視覚障害教育に携わる方のために
編著 香川邦生
- ▶ 視覚に障害のある乳幼児の育ちを支える
編著 猪平眞理